

①Int.CI. ②日本分類
 A 01 n 30 F 322
 30 F 45
 30 F 4
 30 F 922

日本国特許庁

③特許出願公告

昭46-28797

④公告 昭和46年(1971)

発明の数 1

(全4頁)

⑤特許公報

2

⑥ベンジールアルコールを有効成分とする殺虫組成物 を示せば

第 1 表

⑦特許 昭43-4588
 ⑧出願 昭43(1968)1月27日 5
 ⑨発明者 出願人に同じ
 ⑩出願人 塩井健男
 東京都文京区目白台3の22の6

発明の詳細な説明

ベンジールアルコールは植物の諸害虫に対して強烈な殺虫効力がある事は知られて居るが植物に対して甚だしい薬害を与えるので農業として使用する事ができない。本発明はこれにグアヤク脂を加える事に依り植物に対して薬害がほとんどなくなる事を発見し、これを利用してベンジールアルコールを殺虫農薬として或いはその共力剤として特に在来の殺虫剤に対して抵抗性を持つた害虫に対しその殺虫力を回復増強する共力剤としての新しい道を開いたものである。

ベンジールアルコールは1%程度の溶液(有機溶剤例えばメチールアルコール、或いはメチルアルコールとエチールアルコールの混和液)には適当な界面活性剤を配合した水性乳溶液)にても已に植物の弱い部分特に新芽、新葉、花、蕾、果実等に対し甚だしい薬害を示すのを常とする。併し今これにグアヤク脂を僅か0.2~0.4%に溶存する事に依り此の薬害を殆ど除く事ができる。ベンジールアルコールは0.5%以上5%程度まで

検体番号 薬品の名称	I	II	III
ベンジールアルコール	2g	1g	0.5g
グアヤク脂	0.4g	0.2g	0.1g
メチールアルコール	47.6g	48.8g	49.4g
エチールアルコール	50g	50g	50g

上記の割合に溶かした検体のキクヒメアブラムシ、イバラヒゲナガアブラムシシハバチの幼虫に散布した効力試験及びに対する薬害試験の成績を示せば凡

20通りである。

キクヒメヒゲナガアブラムシに対する殺
キクヒメヒゲナガアブラムシ(成虫の
2~2.5倍)のなるべく同じ状態に寄生し
のキク(大輪種)1株あたり20ccを散
鉢を所定の場所(室温25℃湿度40%)
移し24時間後の生死数の状態を調査す
の記号は生存数を認めない+、かなり減
るが生存虫若干を認める+、生存虫は散
とんど変わらない-等で示す。又検体は第

BEST AVAILABLE COPY